

盛岡に唯一無二の文士劇あり

演劇が盛んなまち盛岡で、長年愛されている「盛岡文士劇」。この文士劇が行われる裏側には、さまざまな人たちの想いが——。文士劇のこれまでと今を紹介しします。

【問】文化国際室 ☎626-7524
盛岡劇場 ☎622-2258



文士劇とは

一般的に文士劇とは、「俳優以外の文人、演劇評論家、画家らによって演じられる素人芝居」*のことです。明治38年に東京の各新聞社に在籍する劇評家により、歌舞伎座で行われたのが始まりとされ、新しい演劇を創り出そうという意図が反響を呼び人気となりました。

*日本近代文学館・日本近代文学大辞典から引用



盛岡では、昭和24年に初めて文士劇が行われ、途中長い中断を挟みながらも平成7年に復活。現在に引き継がれています。

公演は、地元の各テレビ局アナウンサーらが盛岡弁で演じる「現代物」と実行委員による「口上」、文化人らによる「時代物」の三

部構成。普段は標準語を話すアナウンサーの慣れない盛岡弁や、作家たちの素人とは思えない本格的な演技が、満席の会場を沸かせています。現在では、多くの文化人によって演じられる文士劇は日本で唯一、盛岡文士劇だけといわれています。

それぞれの想い

盛岡文士劇は、出演者はもちろん、それを裏で支えるたくさんの人の力で創り上げられています。舞台の表で、裏で、文士劇に関わる人それぞれの想いを、盛岡文士劇の魅力も含めて聞きました。



文士劇復活の第1回目から出演しています。盛岡劇場は舞台と客席がちょうど良い距離感で、出演者の表情もよく見えることから人気に。毎年、盛岡弁でお客さんにインタビューするのが楽しみです。文士劇は出演者と裏方、お客さんが三位一体となって初めて成立します。ぜひ、劇場での一体感を感じてほしいですね。

現代物出演 方言指導 中野 美耶子さん



観客へ話しかける 中野さん



迫真の演技を披露する 浅見さん

文士劇に出演するのは3回目。今回初めて時代物の主役、盛岡藩の家老の榎山佐渡を演じました。今回の役は37歳で、私の年齢とも重なることや、私自身、子どもの頃に「さと」と呼ばれていたこともあり、運命的なものを感じています。義に生きた榎山佐渡を多くの人に知ってもらえるとうれしいですね。



時代物出演 浅見 智アナウンサー



方言指導 小野寺 瑞穂さん

復活1回目から出演。演出、監修を経て、今は方言指導をしています。現代物では、盛岡弁でいかに盛岡らしさを演出できるかが大切。稽古では、盛岡弁に苦労した役者さんも今では盛岡弁が楽しそう。盛岡弁のイントネーションは独特の柔らかさや温かみがあるのが特徴。盛岡の人の優しさを言葉からも感じ取ってほしいと思います。

文士劇の裏方となり今回で14年目。最初は盛岡弁が分からず苦労しましたが、今年は憧れの中野美耶子さんに初めて合格点もらえるまでになりました。文士劇をはじめ演劇はお客さんの反応があって成り立つもの。劇場でぜひ、雰囲気を感じ、体感してもらいたいです。



現代物 演出助手 阿部 菜摘さん

文士劇を手伝うようになって3年。初めは現代物の小道具を担当していましたが、演出助手の難しいところは演出担当の言葉を尊重しつつ、出演者の演技を引き出すために、どこまで伝えるかということです。皆さん、真剣に稽古に取り組んでいるので、本物の役者のような本格的な演技を見ることができそうです。



時代物 演出助手 佐々木 仁美さん



時代物メイクの様子



出演者に合わせてかつらを調整

この他にも、衣装や小道具の作製、当日の着付けやメイクなどには、演劇や裏方のプロや長年ボランティアとして携わる地元の演劇をしている人たちが協力して、文士劇を盛り上げています。

盛岡劇場と盛岡文士劇

盛岡文士劇が県公会堂で初開催

盛岡文士劇は、昭和9年に東京で文士劇を開催した出版社の文藝春秋社(当時)に、作品を発表していた作家・鈴木彦次郎らが発起人となり、画家の深沢省三や橋本八百二らに呼び掛け、戦後で娯楽がない時代に市民に喜んでもらおうと開催。第8回公演からは谷村文化センターで開催されるようになりました。

旧盛岡文士劇が最後の公演(第13回公演で中断)



文士劇復活公演の前売り券を買い求める長蛇の列

盛岡文士劇が復活

旧盛岡劇場をにぎわせた盛岡文士劇復活への声も高まり、33年ぶりに盛岡文士劇が復活。

盛岡文士劇の復活の発起人として尽力した、作家の高橋克彦さん。自身も演劇好きで、出演のほか、脚本を手掛けたことも。時代物座長として盛岡文士劇を盛り上げています。



復活第1回目公演

盛岡文士劇初の東京公演

盛岡文士劇初の東京公演は演劇の殿堂と言われる紀伊国屋ホール(東京都新宿区)で開催。3回公演は全席完売で、1000人を超える観客を魅了しました。

盛岡劇場と盛岡文士劇の復活

盛岡藩南部家のお殿様は、とても芸事が好きで、関東以北の「芸どころ・盛岡」は広く知られていました。そういう歴史もあって、旧盛岡劇場では、八幡町や本町の芸妓衆も、舞踊や長唄など日頃の稽古の成果を発表していたんです。ですから、谷村文化センター解体の時には、「歴史あるこの施設を残してほしい」と保存を求める市民運動が起きたほどでした。しかし、老朽化が著しかったため、補修して使うには難しく、多くの市民に惜しまれながら解体されたことを覚えています。現在の盛岡劇場が開場すると、市の桑島博助役(当時)が

ら「文士劇を復活できないか」と言われました。私はすぐにIBC岩手放送の河野逸平社長(当時)に相談し、作家の高橋克彦さんに声をかけて準備を進めました。とはいえ、お客さんが入る心配で、出演者から出演料をもらい、経費に充てたほどでした。ところが、前売り券の販売前日には、盛岡劇場の周辺に行列ができていて、これで自信を持ちました。そうやって33年ぶりに復活した文士劇が、今も続いて24回目、うれしい限りです。盛岡市民は演劇が好きで芸術文化に関心が高い。そこは、昔も今も変わらないんだということを改めて感じますね。



盛岡演劇協会顧問 盛岡文士劇公演実行委員会監事 斎藤 五郎さん

芸事が好まれ、芝居好きな土地柄といわれる盛岡。今では市内に多くの市民劇団があるほど。そんな芸術文化が根強い盛岡で、市民の強い思いによって復活した「盛岡劇場」と「盛岡文士劇」。実は、深いつながりがあることを知っていますか？ これまでの関わりや出来事を年表で紹介しします。



旧盛岡劇場開場

地元の実業家らの出資により開場。設計は東京駅や岩手銀行赤レンガ館を設計した辰野・葛西建築事務所。東京・日比谷の帝国劇場を模した盛岡初の木造3階建て、また東北初の演劇専用施設でした。



旧盛岡劇場

旧盛岡劇場が谷村文化センターとして再スタート



谷村文化センター

いす席となった同センターで盛岡芸妓による発表会



谷村文化センター解体

昭和35年に県公会堂が改装されると、谷村文化センターの利用は年々減少。昭和43年に閉鎖、惜しまれながらも昭和58年に解体されました。



解体前の谷村文化センター

現在の盛岡劇場が河南公民館との併設により完成

外観は旧劇場の建物の雰囲気を残しつつ、花道を設置できるなど演劇向けの専門ホールとして一変しました。こけら落とし公演には、九代目松本幸四郎一行が来盛し、花を添えました。



現在の盛岡劇場



盛岡文士劇の公演の様子をIBC岩手放送で放映します。

1月2日(土)正午～ 現代物・口上
1月3日(日)正午～ 時代物

2月1日(日)の特集テーマは「起業」です。